

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

今後も少人数教育の強みを生かし、学部の理念・目的に沿って、高い教育成果があげられることを期待したい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

当学部は、グローバル化した現代社会にあつて、高度な学際的知識と領域横断的な洞察力を兼ね備えた人材の育成を教育目標に掲げている。これは新しい時代のリベラルアーツ教育とも言えるが、その基盤を成すのは、アクティブ・ラーニングを可能にする少人数の学習環境と、研究・教育上の国際共通語である英語を教授言語とする授業である。2015年度に入学定員が大幅に拡大され、学部創設時の2倍の規模となった(50人→100人)。その急激な変化の中で学部理念を維持するため、2016年度にカリキュラム改革を実施し、開講科目数の拡充と共に、科目群を4つから5つへと編成し直した。2017年度はその結果が具体的に表れ始める時期であった。期待通りの成果が得られた面と成果が思わしくなかった面を検証し、前者についてはさらなる拡充を図り、後者についてはその原因の究明と改善に努めている。特に、履修希望者の特定科目への集中と入学者の英語力の差の拡大は、中・長期的な課題と認識され、具体的な対処法を検討している。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

グローバル教養学部では、入学定員が学部創設時の2倍になったことに伴い、開講科目数の拡充、科目群の再編成等のカリキュラム改革を実施し、少人数制、アクティブ・ラーニングを可能にする教育体制を維持するために、不断的努力が続けられてきている。成果および問題点についての検証もすでに始まっており、今後の取り組みにさらに期待したい。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

地球規模の連帯が強く志向される現在、国家や民族、地域文化の枠を超えて、グローバルな視座に立つ知見や発想が求められている。本学部が提唱するグローバル研究は、多様な文化・社会事象を、地球全体が直面する課題として、あるいは現代世界が共通して経験している変化傾向として捉え、その分析と解決の道を探ることに主眼を置いている。そのためには、刻々変貌する問題系を既存分野の枠組みに拘らず、学際的視点から領域横断的に捉えることが必要となる。グローバル研究・教育が地域と文化の境界を超えるアプローチとすれば、学際研究・教育とは既存の研究・教育の枠を超えるアプローチであり、本学部が称する「教養」とは、このような従来の人文学・社会科学系学問の枠組みを超えた、知の総合を指すことである。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】(教育目標) ※学則別表(11)

学部は、グローバル社会の一員としての役割を積極的に担い、地球社会の課題解決に貢献できる人材の育成を目標とする。社会生活や環境・文化など、あらゆる分野において緊密に結びつきを深めている現代社会において、社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけるには、自ら問題発見し、それを解決していく能力、幅広い教養と深い専門知識とそれを応用する力、異文化・多文化を理解し尊重する柔軟な態度、および世界基準の英語コミュニケーション能力が欠かせない。本学部では、リベラルアーツと学際教育を全て英語で、かつ少人数で行うことで、これらの能力・知識・倫理観を兼ね備えた国際社会の第一線で活躍できる、意欲的な人材の育成を目標とする。

①学部(学科)として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

はい いいえ

②学部(学科)の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。

はい いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

以下の各組織がそれぞれの時期に、理念を記載した学則や各種媒体(学部パンフレットや履修の手引き)の表記を確認し、議論を通してその適切性を検証している。

- ・質保証委員会：学部執行部が自己点検・評価シートを作成する5月上旬および翌年の3月。
- ・Curriculum & FD委員会：次年度のカリキュラム編成を開始する7月。
- ・PR委員会：学部パンフレットの発行と学部ウェブサイトを改訂する6月。
- ・学部教授会：上記委員会から報告を受けた時、および理念・目的に関係する問題が議題となった場合に随時。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。 はい いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。

(～400 字程度まで) ※具体的な周知・公表方法を記入。
 大学案内、学部パンフレット、学部ウェブサイト、オープンキャンパスの学部紹介などで、理念・目的を教職員や学生を含め、広く社会に公表している。加えて、入学者に対しては4月上旬のオリエンテーション（2018年度は4月2日実施）や履修の手引きでも詳しく説明している。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、既存の分野の枠組みを超えて、学際的視点から領域横断的に課題を捉えるグローバル研究を理念・目的としており、これは「実践知」という大学全体の理念・目的を踏まえたものとなっている。理念・目的の適切性の検証プロセスについては、委員会名称・業務内容・開催時期が明記されており、適切である。理念・目的の周知も、十分に行われている。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。
 ・質保証委員会の構成：2名の専任教員
 ・開催日と議題：
 2017年5月31日：2017年度自己点検・評価シートについて
 2018年3月19日：年度末報告書の作成をめぐって

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、質保証委員会の構成が、昨年度の教員2名および執行部から、教員2名のみへと変更されている。委員会は年2回開催されており、適切に活動している。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に「学士（国際教養学）」の学位を授与する。

1. 問題発見・解決能力：日常の具体的出来事から真の問題点を発見し、それを偏見や先入観にとらわれず整理し、向かうべき方向性を見出す能力。また、固定したものの見方に囚われない、領域横断的な問題分析能力を有すること。
2. 学術知識の応用力：地球全体が対処すべき諸問題について、深い教養と最先端の議論に精通し、それらを現実社会に活用できること。
3. 異文化・多文化の理解：民族や言語、価値観や社会制度を異にする国家・地域・コミュニティに関する正確かつリアルタイムの知識。また、それぞれの固有文化の意義を尊重する姿勢があること。
4. 英語コミュニケーション能力：相手の論点を的確に理解し、議論に積極的に関わることでできる高度な英語運用力を備えていること。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

高い意識をもってグローバル社会に貢献し、そこで成功するための能力・知識・倫理観を備えた学生を育てるために、リベラルアーツ教育を軸にした下記のようなカリキュラムを編成する。

1. リベラルアーツ教育：Arts and Literature, Linguistics and Language Acquisition, Culture and Society, International Relations and Governance, Business and Economy の5つの科目群の中から、多様な科目を履修することで、幅広い教養を身に付け、問題発見・解決能力と批判的かつ倫理的な判断力を伸ばし、異文化・多文化の尊重を促す。
2. 学際教育と専門性：1-2年次に5つの科目群の中から、それぞれ選択必修科目を履修し、学際教育の基礎を作る。2-3年次においても、興味の深い分野を中心に、様々な学問分野から総合的に科目を履修し、既存分野の枠組みを超えた学際的な視座を修得する。3-4年次にはゼミ研究を通し、興味の分野において専門性を伸ばし、基礎知識を特定の問題に適用する力を養う。
3. 少人数教育：全ての授業において少人数編成を徹底し、プレゼンテーションやディスカッションなどの双方向型学習を通し、柔軟な思考力と批判的思考力を伸ばす。
4. ダイバーシティ教育：多様性について多くの授業で学ぶとともに、多様なバックグラウンドをもつ教員や学生で構成される学部内のコミュニティに身を置き、実際に多様性を体験することで、異文化・多文化を尊重し、偏見にとられることのない、柔軟な態度を身につけ、異なる他者に対する理解を深化させる。
5. 学術英語教育：論文の内容を正確に理解し、自らも英語で論旨を展開できるように、学術英語のスキルに関わる科目を1-2年次に必修とする。また、4年間に亘り全ての専門科目を英語で教授し、高度な英語運用力を育む。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。

- ・2018年度 GIS 履修の手引き
- ・学部パンフレット
- ・大学案内
- ・GIS ウェブサイト (<http://gis.hosei.ac.jp/>)

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

S A B

(～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

上記3点の適切性については、現場に立つ教員や事務担当の声、学生モニター制度や学生へのアンケート・個別相談を通じた意見聴取、授業相互参観の報告書などを基に、教授会執行部、Curriculum & FD委員会、自己学習支援委員会の他、教授会全体でも検証を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・授業相互参観の報告書（2017年7月12日および2018年1月17日開催のFD Workshop）
- ・学生モニター報告書（2017年度第17回教授会議事録、資料3）
- ・2017年度秋学期新入生個別相談報告（2017年度第8回教授会議事録、資料7）
- ・2018年度春学期新入生個別相談報告（2018年度第1回教授会議事録、資料4）

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力を段階的に伸ばせるよう、1-2年次に学術英語スキル科目 (Academic Skill Subjects) と入門科目 (Introductory Courses) を置き、学術的な英語力の育成とともに、リベラルアーツに欠かせない重要科目を5つの科目群からそれぞれ4単位以上 (100番台、200番台それぞれ2単位以上) 履修させている。2-3年次は学際教育を実現するため、多様な分野の科目を設置し、学生の興味に応じてこれらを自由に履修できるようにしている。3-4年次のゼミでは、基礎知識を特定の問題に適用する力を養うだけでなく、海外大学院進学も視野に入れた専門知識と研究能力を習得できるようにしている。研究テーマがゼミの内容と異なる学生に対しては、教員の個別指導により論文を執筆する Independent Study and Essay I/II を提供している。 ・2015年度からの入学定員増に対応して、2018年度には23セメスター・コマ分の科目が開講されている (秋学期開講予定科目を含む)。 	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS Curriculum Map: https://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gis/NEWS/zaigaku/2018/GIS_CurriculumMap_201803.pdf ・GIS Curriculum Tree: https://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gis/NEWS/zaigaku/2018/GIS_CurriculumTree_201803.pdf ・2018年度GIS履修の手引き ・GIS Syllabus 2018 ・GISウェブサイトのCurriculumページ (http://gis.hosei.ac.jp/cms/?academics=curriculum) 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修 (個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ (必修・選択等) 含む) への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>2016年度より以下の新カリキュラムを導入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4科目群 (Arts, Literature and Culture; Linguistics and English Education; Society and Identity; International Relations and Economy) を5科目群 (Arts and Literature; Linguistics and Language Acquisition; Culture and Society; International Relations and Governance; Business and Economy) に編成しなおし、グローバル教養により相応しいカリキュラムを整えた。全ての科目群で科目数を増やすことで、学際教育と少人数教育の両方を維持している。 ・100番台・200番台レベルそれぞれにおいて選択必修科目を設け、各科目群から2単位以上履修することを学生に課している。学生は幅広いリベラルアーツの基礎を習得した後に、300番台レベルの科目やゼミ (400番台レベル) で、より専門性の高い科目を履修することができる。 ・入学時の学生の英語能力に応じ、学術英語のスキルに関わる科目を1-2年次必修とし、かつ、スコアが比較的低い学生にはより多くの必修科目を設けることで、学術英語のスキル習得にも体系性と順次性を確保している。また英語の能力別クラス編成の基礎となる入学時のTOEFL-ITP欠席者への対応、およびTOEFL-ITPスコアと自己認識する英語力に著しい差が生じた学生への対応に公平性を期すため、その手順を定めている。 ・従来通り、全ての科目に100～400番台のナンバリングを行っている。200番台以上の中・上級科目の履修に際して、対応する初級・中級科目の既習を条件とする場合は、シラバスにprerequisitesを明記している。 <ul style="list-style-type: none"> ・200～400番台の科目において、厳密なprerequisitesを要求しない科目でも、既習が望ましい科目がある場合は、その旨シラバスに明記している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS Curriculum Map: https://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gis/NEWS/zaigaku/2018/GIS_CurriculumMap_201803.pdf ・GIS Curriculum Tree: https://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gis/NEWS/zaigaku/2018/GIS_CurriculumTree_201803.pdf ・2018年度GIS履修の手引き ・GIS Syllabus 2018 ・GISウェブサイトのCurriculumページ (http://gis.hosei.ac.jp/cms/?academics=curriculum) 	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部のカリキュラム全体が幅広く深い教養及び総合的な判断力を培うことを目的としている。これまで多様な科目を柔軟に履修することを学生に促していたが、1-2年次から特定の分野に偏った履修をする学生もいたことから、2016年度入学者から、100番台・200番台に選択必修科目を設け、5科目群からそれぞれのレベルで2単位以上の履修を課している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 12のゼミを開講している。ゼミでは専門性の高い教育・研究を行い、学術能力を高めるだけでなく、様々な共同作業を通して豊かな人間性の涵養も期待される。 学部独自の留学制度である Overseas Academic Study Program (OAS) も、国際社会で活躍するために不可欠な教養と人間性の育成に貢献している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> GIS Curriculum Map: https://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gis/NEWS/zaigaku/2018/GIS_CurriculumMap_201803.pdf GIS Curriculum Tree: https://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gis/NEWS/zaigaku/2018/GIS_CurriculumTree_201803.pdf 2018年度 GIS 履修の手引き GIS Syllabus 2018 OAS パンフレット

④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A	B
------------------------------	---	---------------------------------------	---

<p>(～400 字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初年次教育として学術的な英語スキルの修得を目的とした Reading、Writing、Debate and Discussion の三技能の科目を必修化している。また、入学時の TOEFL-IPT スコアに応じて、スコアが低めの学生にはより多くの英語スキル科目 (最大 16 単位) を履修させている。これにより、遅くとも 2 年次の秋学期までには論文を読み解き、持論を相応しい文体で発表できるだけの英語力を身につけることが可能となる。学術英語のスキル科目には共通のシラバスと教科書を設定し、担当教員によりレベルや内容に差が生じないように配慮している。 100 番台の専門入門科目に関しては、選択必修科目を設けることで、リベラルアーツ教育に特に重要な科目を 5 科目群それぞれから 2 単位ずつ履修させている。また、一部の科目を春学期と秋学期の双方に設置することで、履修の機会を増やしている。
--

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018 年度 GIS 履修の手引き GIS Syllabus 2018

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A	B
-----------------------------------	---	---------------------------------------	---

<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な文化・社会事象を地球全体が直面する課題として、あるいは現代世界が共通して経験している変化として捉えることが本学部の理念である。設置科目のほとんどが、国際性と異文化理解を涵養する科目とも言える。 客員教員を含めた専任教員の半数が外国籍である他、日本人教員も全員が長期にわたる海外留学・研究経験を持つ。教員・在学生の出身・長期滞在先は 32 の国と地域に及び、教授言語が英語であることと相まって、教室に国際社会が具現化されている。 学部独自の留学制度 (OAS) を推進している。専任教員の OAS Director と英語母語話者 1 名を含む 2 名の嘱託職員が留学ガイダンスやサポートを統括している。また、100 番台に OAS Preparation という科目を設定し、4 カ国の留学先大学の特徴やカリキュラム、大学生生活全般に関わる情報を提供している。 派遣留学制度や国際ボランティアにも積極的に参加するよう促している。2018 年秋には 20 名の派遣留学が確定している。 2016 年度からは国際ボランティア、国際インターンシップ、短期語学研修も単位認定の対象となっている。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018 年度 GIS 履修の手引き GIS Syllabus 2018 OAS パンフレット 大学案内 2018 年度第 2 回教授会議事録、資料 1
--

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A	B
---	---	---------------------------------------	---

<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育に関しては、新たに設けた Business and Economy の科目群の中で、関連科目として International Business and Employability を設置している他、従来通り、総合科目として、Employability Skills I/II、Introduction to Career Design I/II などの乗り入れ科目を維持している。 学部にキャリア支援委員会を設け、キャリアセンターと連携を取りながら学生のサポートを行うほか、キャリアセンターの職員によるゼミ出張ガイダンスも行っている。 2015 年度より、学部は Homecoming Day を主催している (2018 年は 10 月 13 日を予定)。在学生もこれに参加することで、卒業生とキャリア面でのネットワークを作ることができる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>・学部企画として、就職内定学生(4年生)が自身の就職活動経験を1-3年生に対して共有することを目的として、GISキャリアフォーラムを2回実施した(11月24日開催、参加者31名、12月5日開催、参加者29名)。また、GISの学生に対して、アクセントの会社説明会を実施した(1月19日、参加者12名)</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度GIS履修の手引き ・GIS Syllabus 2018 ・「GISキャリアフォーラム」リーフレット ・「アクセント会社説明会」リーフレット 	
<p>3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部ガイダンス(2018年4月4日実施) ・教員による新入生オリエンテーション(2018年4月2日実施) ・教員による個別相談(2018年4月5日実施) ・自己学習支援委員による個別面談(成績の低下や獲得単位数の少ない者に対して毎学期実施。2017年度春学期は5月30日、6月6日、13日、秋学期は11月9日に実施した)。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別面談報告書(2017年度第6回教授会議事録、資料4;第12回教授会議事録、資料9) 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>少人数双方教育の特徴を生かし、きめ細やかな学習指導を行っている。授業の前後やオフィスアワーで学生の質問や相談に応じるほか、必要に応じてアポイントメントによる面談も行っている。成績不振や単位数の少ない学生には自己学習支援委員が面談し、支援やアドバイスをを行っている。留学や教学のサポートは専任教職員だけでなく、英語母語話者1名を含む2名の嘱託職員も対応している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別面談報告書(2017年度第6回教授会議事録、資料4;第12回教授会議事録、資料9) ・2018年度GIS履修の手引き ・GIS Syllabus 2018 	
③学生の学習時間(予習・復習)を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>少人数双方教育の特徴を生かし、多くの授業において、英語によるレポート、ディスカッション、プレゼンテーション、グループプロジェクトなどを必須としている。これらに参加するには関連資料を読む、資料を用意する、グループによる準備作業など授業時間外での学習が不可欠である。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS Syllabus 2018 	
④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。</p> <p>年間履修上限単位数は(2012年度以降の入学生から)49単位まで。</p> <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <p>一定の条件を満たし教授会の推薦を受けたものは次のように上限が緩和される。</p> <p>(1)2年次以上で、前年度までの累積GPAが3.5以上の場合、年間履修登録単位数が60単位まで認められる。(2)2年次以上で、前年度の年間GPA上位者は、通常公開されていない他学部科目を年間4単位かつ8単位以内で履修できる。(2)の制度の対象者が(1)の制度の対象者と重複する場合は、上記の年間履修登録単位数の範囲内で、年間4科目かつ8単位以内の他学部科目の履修が認められる。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>2018年度GIS履修の手引き</p>	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入(取組例:PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

ほぼ全ての授業でディスカッション、プレゼンテーション、グループプロジェクト、校外学習(field study)などのアクティブ・ラーニングを取り入れている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・GIS Syllabus 2018

⑥それぞれの授業形態(講義、語学、演習・実験等)に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。

S A B

(~400字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。

GISでは少人数双方向教育を重視しており、一部の例外を除いて30名を大きく超えないようにしている。100番台から300番台における一般科目の平均受講者数は約26名である。英語スキル科目とゼミの平均受講者数はさらに少ない。2015年度からの入学者の増加に対応するため、毎年15.5コマ(通年換算)を増やしてきており、2018年度(4年目)までに総62コマの増設を予定している。また、兼任講師のため懇談会を開き、様々な事項に加え、適正学生数、セレクションについて文書を配布し説明をした(2017年3月22日)。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・Information for Instructors(兼任講師全員に配布・送付している学部作成のパンフレット)

⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入(取組例:執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。

- ・翌年度科目のシラバス執筆を兼任講師に依頼する際、書式と記載事項に関する注意点を記した英語の手引きを配布する。
- ・また、専任教員のコーディネーターを割り当て、各人がウェブ上にアップロードする前に、内容や記述方法などの確認や質問ができるようにしている。各科目の英語表現の確認が終了次第、全シラバスのチェックを執行部と教授会が指名した第三者委員が行う。
- ・書式や内容、英文表現について適切さを欠いている場合には、兼任講師へ修整を依頼し、再チェックを行う。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・シラバス執筆に関する兼任講師への依頼文
- ・シラバスチェックのエクセルシート
- ・2018年度シラバス第三者確認指摘事項一覧(2017年度第19回教授会議事録、資料15)

⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入(取組例:後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。

- ・学生による授業評価アンケート
- ・学生モニター制度
- ・専任教員による授業相互参観

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・授業相互参観の報告書(2017年7月12日および2018年1月17日開催のFD Workshop)
- ・学生モニター報告書(2017年度第17回教授会議事録、資料3)

3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

S A B

【確認体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・全学部の成績分布表
- ・成績調査申請制度

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度春学期GPCA集計表(2017年度第13回教授会議事録、資料1)
- ・2017年度秋学期期末「学生による授業改善アンケート」の集計結果(2018年度第1回教授会議事録、資料1)
- ・採点訂正申請書(2017年度第8回教授会議事録、資料28; 2017年度第19回教授会議事録、資料21)

②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部(学科)内基準を設けて実施していますか。

はい いいえ

(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

OASや派遣留学制度を利用して海外大学で取得した単位はOAS委員会および執行部で厳正に審査した上で、教授会の了承を経て単位認定を行っている。取得単位はレベルに応じて、Study Abroad: Pre-Academic Course, Study Abroad: Academic Course 1-3科目に振り替えている。入学前の単位認定については、適時、教授会にて審査している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・OAS単位認定ガイドライン(2015年度第9回教授会議事録、回覧資料10)
- ・派遣留学単位認定(2017年度第7回教授会議事録、資料20; 第17回教授会議事録、資料14)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・OAS 単位認定 (2018 年度第 1 回教授会議事録、資料 18) ・他大学で履修した単位認定を申請するための様式 (入学前既修得単位認定希望願) 		
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスチェックの際に成績評価の基準と内訳について確認している。成績調査の申請があった場合は、担当教員に根拠資料の提出を求めている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS Syllabus 2018 		
④学生の就職・進学状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい	いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアセンターが管理している卒業生の進路に関するデータを基に、卒業生の就職・進学状況を把握している。 ・Homecoming で卒業生にアンケートを行い、転職や大学院進学などの情報を集め、できる限り最新データの把握に努めている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生データ提供申請書 		
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。		
①成績分布、進級などの状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい	いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>執行部とカリキュラム委員会で検証した上で、教授会で全教員に周知している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>進級・卒業判定名簿 (2017 年度第 17 回教授会議事録、資料 13)</p>		
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野や各科目の特性に応じて学習成果を評価できるよう、履修可能人数、授業の進め方、評価方法と基準を学生にシラバスと初回授業で明瞭に示している。評価には学期末試験だけでなく、レポートや口頭発表、授業への貢献度なども考慮するよう、兼任講師を含む全教員に指導している。 ・TOEFL スコアの向上を主目的とする科目 English Test Preparation/English Test Preparation Advanced と留学準備科目 Overseas Academic Preparation については、科目の性質上「Pass (合格) /Fail (不合格)」で評価し、結果は GPA に算入されない。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018 年度 GIS 履修の手引き ・GIS Syllabus 2018 ・2018 年度 Seminar 履修について (http://www.hosei.ac.jp/gis/ja/NEWS/zaigaku/170916_01.html) ・Information for Instructors (兼任講師全員に配布・送付している学部作成のパンフレット) 		
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (取り組み例: アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等)。</p> <p>Curriculum & FD 委員会では、定期的に全学生の履修登録状況、履修単位数、GPA の確認を行っている。また、TOEFL-IPT の複数回受験を義務化し、スコアを用いて英語力の向上を測定し学習成果の把握・評価に努めている。大学評価室卒業生アンケートも活用している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学生の履修登録状況、履修単位数、GPA の確認 (カリキュラム・FD 委員会) ・卒業生データ提供申請書 ・TOEFL-IPT Level 1(1 年目は 4 月と 1 月の 2 回、2 年目は 4 月か 1 月の 1 回、および留学帰国直後) 		
④学習成果を可視化していますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入 (取り組み例: 専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の GPA、履修単位数、進級・留級の状態等の一覧表を作成し、教授会で共有している。 		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>・英語力に関しては、学部実施の TOEFL-ITP をはじめ、学生各自が任意で受験する TOEFL-iBT や IELTS、TOEIC の結果も報告させ、データ化している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>進級・卒業判定名簿（2017 年度第 17 回教授会議事録、資料 13）</p>	
<p>3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>・全学生の履修登録状況、履修単位数、GPA、TOEFL-ITP スコアを Curriculum & FD 委員会と教授会で確認し、それを基にクラス編成や採用教員の担当科目決定、自己学習支援委員による個別面談を行っている。</p> <p>・卒業生アンケート調査、卒業後の進路調査の結果を教授会で共有している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・進級・卒業判定名簿（2017 年度第 17 回教授会議事録、資料 13）</p> <p>・TOEFL-ITP Level 1(1 年目は 4 月と 1 月の 2 回、2 年目は 4 月か 1 月の 1 回、および留学帰国直後)</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <p>学部長が教員全員に対する学生アンケートに目を通し、問題のある教員には面談し、事情説明や改善を求めている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・授業改善アンケート</p>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>2015 年度からの入学定員増のため、2018 年度には 31 セメスター・コマ分の科目増設が必要であることが確認され（2017 年 6 月）、そのうち 23 コマ分がすでに開講されている（秋学期開講予定科目を含む）。しかし、残り 8 コマ分の科目については担当者の確保に至っていない。その背景には、英語で専門科目を教授できる教員が全国規模で枯渇している事実があるが、国際公募を継続し相応しい人材の獲得に鋭意努力している。</p>	3.3 ①、②

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

<p>グローバル教養学部では、学位授与方針（「問題発見・解決能力」「学術知識の応用力」「異文化・多文化の理解」「英語コミュニケーション能力」）が設定・公表されており、またそれを達成するための教育課程の編成・実施方針（「リベラルアーツ教育」「学際教育と専門性」「少数者教育」「ダイバーシティー教育」「学術英語教育」）の設定・公表も、適切である。適切性と関連性の検証については、常時きめ細かく行われている。</p>

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

<p>グローバル教養学部では、学術的な英語力の育成とリベラルアーツの学際教育を実現するために、教育課程・教育内容が適切に提供されており、カリキュラムの順次性・体系的性が確保されている。特に、リベラルアーツの幅広い学びのために、5 つの科目群から選択必修により履修させていること、また上級科目の一部に関して、対応する初級・中級科目の既習を条件とする prerequisites 制度を導入していることは、高く評価できる。初年次教育として、英語スキルの修得を目的として 3 技能の科目が必修化されており、スコアが低めの学生に対する履修システムも整備され、高大接続が適切になされている。学生の国際性を涵養するにあたっては、多様な出身・長期滞在先をもつ教員・在学生により、教室自体が国際社会を体験する場ともなっている点はユニークである。学部独自の留学制度および全学的な派遣留学制度や国際ボランティアに学生の参加を促し、実績をあげている。学部主催の Homecoming Day やキャリアフォーラムの開催を通して、キャ</p>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

リア教育にも力を入れている。

③教育方法に関すること (3.4)

グローバル教養学部では、学生の履修指導と学習指導が適切に実施されており、特に留学や教学のサポートが専任教職員および英語母語話者を含む嘱託職員によって手厚く行われている。少人数双方向教育の特徴を活かして、英語によるレポート、ディスカッション、プレゼンテーション、グループプロジェクト、校外学習などのアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるなど、学生の学習時間確保のための工夫や、教育上の目標を達成するための効果的な授業形態の導入に取り組んでおり、高く評価できる。履修登録単位数の上限設定や成績上位者のための例外措置も設定されている。1授業あたりの学生数は少人数に設定され、兼任教員にも文書を配布して授業運営に関して丁寧な説明を実施していることが評価できる。シラバスに関しては、執筆依頼時に教員に英語の手引きを配布するほか、専任教員のコーディネーターや第三者委員を配して適切に作成されるようシステムが整えられている。授業がシラバスに沿って行われていることについての検証もなされている。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7)

グローバル教養学部では、成績評価と単位認定の適切性が確認されており、国内外の他大学で取得した単位に関しても、認定基準が設けられ、適切な手順を経て認定されている。厳格な成績評価のために、成績評価の基準・内容の確認や、成績調査申請への対応も実施されている。学生の就職・進学状況については、卒業時のみならず、卒業後のホームカミング時のアンケートも利用して把握に努めている点は独自の取り組みとして評価できる。

成績分布・進級状況は学部として把握されている。分野の特性に応じた学習成果を評価できるよう、全教員に対し、学部としてきめ細かな授業運営を指導している。また科目の性質上「Pass (合格) / Fail (不合格)」も一部科目で導入されている。定期的に学習成果を把握・評価し、可視化が行われている。

全学生の学習成果が定期的に検証されており、学生による授業改善アンケート結果が組織として活用されている点も評価できる。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

多様なバックグラウンドをもった学生を受け入れるべく、多様な入試制度によって受験生を多面的に評価する。以下の能力・資質によって選抜する。

- (1) 本学部のカリキュラムを十分に消化し得るだけの基本的な学力を有すること。
- (2) 偏った見方に固執せず、柔軟な発想と論理的思考力を有すること。
- (3) 学部の理念と教育目標を十分に理解していること。
- (4) 継続的かつ能動的に勉学に励む意欲があり、そのような習慣を身につけていること。
- (5) 世界基準での英語の授業についていけるだけの十分な英語力を有すること。

●自己推薦特別入試および推薦入試では、上記のすべてを評価する(下記の表を参照)。具体的には調査書にて上記(1)と(4)を、推薦状(自己推薦入試・指定校推薦入試)にて(2)と(4)を、志望理由書にて上記の(2)、(3)、(4)を、TOEFLやIELTSを始めとする外部英語試験にて上記の(1)と(5)を、筆記試験(自己推薦入試)にて(1)、(2)、(5)を、面接にて(2)～(5)を評価する。

●一般入試では、主に(1)、(2)、(4)、(5)を評価する。

●帰国生や留学生のみを対象とする特別入試は行わないが、海外の教育機関や国内のインターナショナル・スクールなどの出身者も積極的に受け入れるべく、教育制度・課程の違いについても十分に配慮し、入学時期も4月と9月の二回、設けている。

自己推薦特別入試および推薦入試

一般入

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	調査書	推薦状	志望理由書	外部英語試験	外部英語試験 (IB)	筆記試験	面接	試
(1) 基本的な学力	○				○	○		○
(2) 柔軟な発想と論理的思考力		○	○			○	○	○
(3) 学部の教育目標の理解			○				○	
(4) 学習意欲	○	○	○				○	○
(5) 英語力				○	○	○	○	○

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

安定した数の秋入学を受け入れる目的で、自己推薦入試の国外選考に関して、2018年度入試からは English A: Literature または English A: Language and Literature を履修して IB Diploma を取得した者には、TOEFL や IELTS を免除することとした。また秋入学数が全体の入学定員の中に組み込まれたことにより、1年間の受け入れ学生数がより安定し適正数に近づき、教育にもよい影響を及ぼすと予想される。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度第7回入試委員会、資料8
- ・2018年度第2回学部長会議資料 No 20

定員充足率 (2013～2017年度)

(各年度5月1日現在)

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	66名	66名	100名	100名	100名	
入学者数	67名	71名	94名	125名	96名	
入学定員充足率	1.01	1.08	0.94	1.25	0.96	1.05
収容定員	216名	232名	282名	332名	332名	
在籍学生数	244名	248名	293名	357名	394名	
収容定員充足率	1.13	1.07	1.04	1.08	1.19	1.10

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】 ※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20以上	1.25以上

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上
---------	---------	---------

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

執行部が学生の入学年別・入試経路別の GPA と TOEFL-ITP スコアを把握している。結果は教授会の議論の中で検証され、入試改革、カリキュラム改革等に反映されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ TOEFL-ITP スコア一覧

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、求める学生像と修得しておくべき知識等の内容・水準を明らかにした学生の受け入れ方針が詳細に設定されており、評価できる。秋入学者数を安定させるための選考方法の変更、および秋入学者を全体の入学定員に組み込む変更を行うことにより、定員の超過・未充足に対しても適切に対応している。入学者選抜の結果の検証と改善への取り組みについては、執行部が学生の入学年別・入試経路別の GPA と TOEFL-ITP スコアを把握し、教授会で議論された後、入試改革、カリキュラム改革等に反映されている。

5 教員・教員組織

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011 年度自己点検・評価報告書より)

学部の理念・目標の理解に基づいて教育と研究に専心し、高い倫理観と愛情を持って学生を育成し、大学の発展に貢献する教員を求める。学生は、本学部のディプロマ・ポリシーに従い、グローバル研究の理念のもとに、問題を発見し解決する能力、世界基準の議論に精通し意見を発信する能力、異文化・多文化に対する深い理解、そして英語の高いコミュニケーション能力を修得し、「学士(国際教養学)」の学位を授与される。したがって編制方針に添い具体的に教員に期待されるものは、1. 英語を教授言語とすること 2. 各自の専門研究の深化とともに、各領域を超えて学際的視野で、客観的かつ柔軟な発想で研究対象を捉え学生に教えること 3. 少人数編成のクラスでの教育、学生とのコミュニケーションに対応できることである。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・新規教員採用募集要項および昇格に関する規定

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※簡条書きで記入。

- ・教授会執行部 3名（学部長 1名、教授会主任 1名、教授会副主任 1名）
- ・Curriculum & FD 委員会（カリキュラム委員長 1名、執行部 3名、その他専任教員 2名）
- ・質保証委員会（委員長 1名、その他専任教員 1名）
- ・自己学習支援委員（1名）：GPA や取得単位数が低い学生との面談・サポートを行う。
- ・Overseas Academic Study Program Director（1名）：学部内の留学制度に関する支援を行う。
- ・PR 委員会（3名）：学部パンフレット作製、学部ウェブサイト管理等、学部広報に関する役割を担う
- ・キャリア支援委員会（2名）
- ・資料室 & Common Room 管理委員（1名）
- ・教授会（2018年度は 14 回開催予定）

【明示方法】※簡条書きで記入。

- ・各種委員会の一覧を作成し、教授会にて配布している。
- ・上記一覧は Desknets 上にも掲載され、常に参照が可能である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度 GIS 各種委員表

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

（～400 字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

当学部のリベラルアーツ教育に相応しい教員組織を備えている。5つの科目群にそれぞれ2～3名の専任教員を配置している。2017年秋に英語を母語とする准教授1名が退職したため、2018年度4月1日付で准教授1名（英語母語話者）を採用した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学術研究データベース（教員紹介）
- ・学部パンフレット
- ・学部ウェブサイト

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

（～400 字程度まで）※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

当学部は大学院を設置していないが、教員組織は国内外の大学院に進学を希望する学生に対応できるよう編成されており、毎年、一定数、欧米の大学院を中心に進学する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学術研究データベース（教員紹介）
- ・学部パンフレット
- ・学部ウェブサイト

2018年度専任教員数一覧

学部（学科）	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上必要専任教員数	うち教授数
GIS	7	6 (1)	0	1	14	10	5

専任教員 1 人あたりの学生数（2018 年 5 月 1 日現在）：30.4 人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】（～200 字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

現時点では 40 歳未満の専任教員は 1 名のみであるが、定年退職者の補充枠には若い応募者が多いため、近年中にはよりバランスの取れた年齢構成になると考えられる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

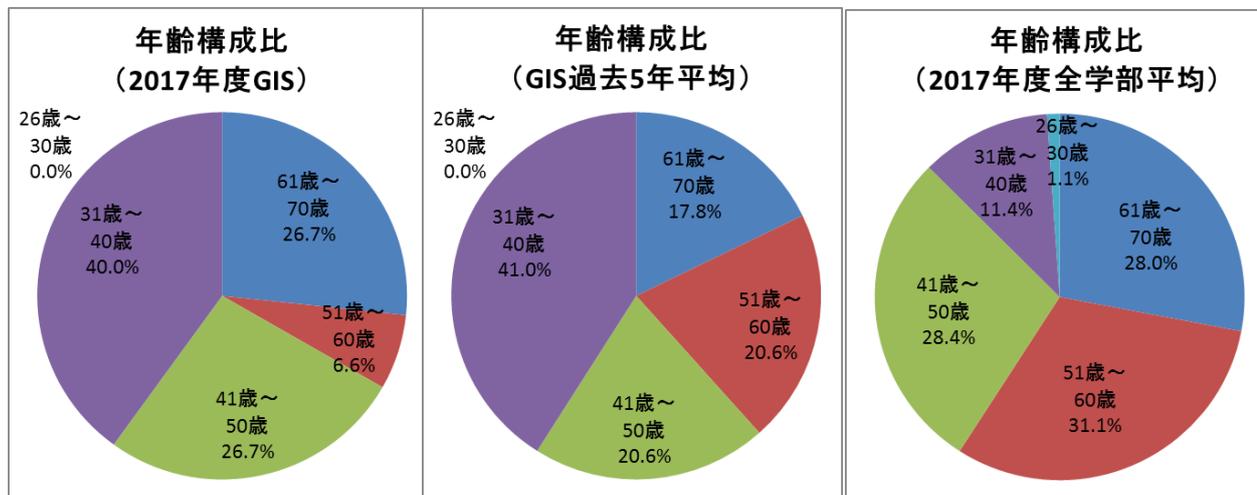
※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・各専任教員の履歴書

年齢構成一覧

(2017年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2017	0人	6人	4人	1人	4人
	0.0%	40.0%	26.7%	6.6%	26.7%



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・新規教員採用募集要項
- ・グローバル教養学部教員昇格に関する内規

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※簡条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。

- ・募集採用は原則国際公募である。人事採用の手続きは、学部長の発議→人事委員会→候補者の選定→資格審査→教授会での投票、の経路で行われている。
- ・兼任教員も原則国際公募で行っている。手続きは、カリキュラム委員会が科目を決定し、候補者の選定と資格審査を行い、教授会で承認を得る。
- ・昇格は、学部長の発議→人事委員会による資格審査→人事委員会の推薦→教授会での承認、の経路で行われている。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】 ※簡条書きで記入。

- ・Curriculum & FD委員会（教授会執行部を含む）

【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※簡条書きで記入。

- ・FDワークショップ：春学期と秋学期に各1回ずつFD Workshopを開催し（2017年度は7月12日と2018年3月7日）、専任教員が参加し効果的な教授法について活発な議論を行っている。2017年度3月7日の回では、McLeod 助教が“On Practice-led Research (PLR) and the challenges of teaching in creative education”のタイトルで研究発表を行った。
- ・執行部及び各分野の専任教員が授業相互参観を行い（2017年度は春学期17科目と秋学期8科目）、担当教員にフィードバックしている。また、FDワークショップにて参観の報告を行っている。
- ・3月に兼任教員懇談会を開催し、専任教員および兼任教員を交えて教育方法に関する案内と意見交換を行っている（2017年度は3月20日）。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・FD Workshop 配布資料
- ・授業相互参観の報告書（2017年7月12日および2018年1月17日開催のFD Workshop）
- ・兼任教員懇談会（2017年度第18回教授会議事録、資料24）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、ディプロマ・ポリシーを満たす学生を輩出できるよう、教員組織の編制方針が定められ、教員に求められる能力・資質等が具体的に3点に分けて記載されており、大変評価できる。組織的教育を実施するための委員会に関しても、人数等を年度ごとに見直したり、必要とされる委員会を新たに設置したり、きめ細かに対応している。学部のカリキュラムにふさわしい教員組織が整えられており、大学院は設置されていないものの、国内外の大学院進学者も想定した教育組織になっている。教員の年齢層のバランスも意識されている。教員の募集は専任・兼任ともに国際公募となっており、任免・昇格に関わる各種規程が整備され、適切に運用されている。学部内のFD活動に関しては、ワークショップや兼任教員懇談会が開催されているほか、執行部および各分野の専任教員により25科目の授業相互参観が実施され、結果がワークショップにて報告されるなど、実質的に機能していることが評価できる。

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※簡条書きで記入。

- ・執行部が事務からの提供データ（履修登録の一覧表）をもとに把握している。
- ・休・退学者に関しては教授会を通して全専任教員で情報を共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度第1回、4回、7回、8回、9回、10回、11回、14回、15回、17回、19回、2018年度第1回の各教授会議事録
- ・進級・卒業判定名簿（2017年度第17回教授会議事録、資料13）

②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。

S A B

(~400字程度まで) ※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィサー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。

学術英語のスキル科目では習熟度に応じたクラス編成を行っている。学生の学習支援のためにオフィサーを設ける一方、少人数クラスの利点を生かし、都度、学生の相談に応じアドバイスを与えるようにしている。資料室では英語母語話者1名を含む2名の嘱託職員が、レポートの英文チェックや留学相談等、さまざまな就学支援を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度GIS履修の手引き
- ・GIS Syllabus 2018

③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。

S A B

【成績不振学生への対応体制および対応内容】※簡条書きで記入。

自己学習支援委員会が該当する学生に対し、個別面談を行っている。面談の結果は教授会で共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・個別面談報告書（2017年度第6回教授会議事録、資料4；第12回教授会議事録、資料9）

④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。

S A B

(~400字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。

外国人留学生に特化した支援は行っていないが、履修登録の相談や教科に関する相談には（必要に応じて英語で）適切

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

に対応している。教員、事務、資料室すべてにおいて対応可能である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。

S A B

(~400 字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。

- ・小規模学部であることから、問題内容に応じて教授会、事務、資料室が連携して迅速に対応している。
- ・市ヶ谷学生生活委員（教授会副主任）、ハラスメント防止対策委員（教授会主任）および学生相談・支援委員会/市ヶ谷学生相談・支援室教員相談員がキャンパス内での生活問題について随時報告し、教授会全員と情報を共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2018 年度 GIS 各種委員表

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、執行部において履修登録情報の確認、教授会において休・退学者の共有を行っている。修学支援としては、オフィスアワーや少人数クラス、資料室の職員が窓口となり、特に英語学習関連の相談に積極的に応じている。各教員のオフィスアワーについては『GIS 履修の手引き』に一覧表が掲載されており、学生にわかりやすく周知されている。成績不振学生に対しては、自己学習支援委員会が窓口となって個別面談を行ったうえで、教授会に報告されている。外国人留学生の修学支援および学生の生活相談に関しては、教員、事務、資料室のいずれにおいても対応可能であり、小規模学部の利点を生かして、連携した取り込みがなされており、評価できる。

7 教育研究等環境

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。

S A B

(~400 字程度まで) ※教育支援体制の概要を記入。

- ・学部資料室には英語を母語とする嘱託職員が週 3 日間常駐しており、GIS Common Room を使用して、レポートの英文チェックや留学相談など、英語運用に関する様々な就学支援を行っている。
- ・情報実習室を使用する授業支援のため、2名の教員補助員 (TA) を委嘱している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2018 年度 GIS 履修の手引き

・2018 年度情報実習室 TA 候補者 CV (2017 年度第 19 回教授会議事録、資料 17)

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
学生の英語力向上に関して、英語を母語とする嘱託職員の果たす役割は極めて大きい。英語母語話者と日常的にコミュニケーションを続けることで、留学経験のない新入生も実践的な英語力を磨くことができる。	7.1 ①

(3) 問題点

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、英語運用面での教育支援への取り組みがなされている。学生に対して授業外でも日常的に英語コミュニケーションの機会を与えるべく、英語を母語とする職員が学部資料室に常駐する教育支援体制を整えており、特に授業レポートの英文チェックを希望する学生への対応が高く評価できる。情報実習室支援のためには、ティーチング・アシスタント（TA）も活用されている。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。

S A B

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

学部としては卒業後、海外展開する日系企業、外資系企業、関連団体・組織等で活躍する人材をより多く輩出することで社会貢献しているが、以下のように、教員個人やゼミ単位で社会連携・社会貢献に取り組んでいる事例もある。

例)

- ・地域活性化を目的として、地方自治体職員を対象とした対日投資セミナーを経済産業省外郭団体（対日貿易投資交流促進協会）と開催した（10月19日）。関連して三重県に進出した外資系企業を教員とゼミ生が訪問し、三重県への進出理由や課題について意見交換を行った（2017年8月7日、8日）。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学部パンフレット
- ・法政大学学術研究データベース（教員紹介）
- ・一般財団法人 対日貿易投資交流促進協会のホームページ

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、学部として、国内外の多様な企業・団体・組織等で活躍する人材の輩出という形で、社会連携・社会貢献を行っている。また、教員個人やゼミ単位でも学外組織との連携協力の取り組みが意識されている。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

明文化された規定に則った学部運営を行っている。各職の権限や責任については、年度ごとに各種委員表を作成し、教員間で共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度 GIS 各種委員表

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、「2018年度 GIS 各種委員表」に明示されている各種委員会を設置し、各職の権限や責任を明確にし、教員間で共有しており、適切である。

III 2018年度中期・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	学部入学定員の大幅増により生じた現行カリキュラム上の問題点を解消し、学部の理念である国際基準の教育に相応しい新カリキュラムを策定・施行する。
	年度目標	2020年度導入の新カリキュラムの編成に向けて、現行の卒業要件、科目群と学際性、EMI（教授言語としての英語）と CLIL（内容・言語統合型学習）をめぐる課題を洗い出す。
	達成指標	学部の特徴であるリベラルアーツ教育、多分野性と学際性、EMI、少人数制による双方向授業の4点の質的向上を反映した新カリキュラムの素案を提示する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	①「グローバル社会の諸問題の解決に資する人材の育成」という当学部の理念達成に向けて、より専門性の高い学際的知識を滋養する教育方法を導入する。 ②履修希望者の特定科目への集中と入学時における英語力の差の拡大に対して、有効な対策を検討する。
	年度目標	①-1 プレゼンテーション、クラス・ディスカッション、教員との対話型授業など、少人数制による双方向教育のさらなる拡充を図る。 ①-2 ゼミ研究の質的向上を図る。 ②-1 特定科目への履修者集中の原因を突き止め、2019年度以降の複数コマ開講の可能性を探る。 ②-2 入学時の英語力が低い学生に対して、ERP科目の受講を促す。
	達成指標	①-1 双方向型授業の実施状況を把握する。 ①-1 双方向型教育が部分的にも行われる授業については、2019年度シラバス作成時にその旨明記するよう要請する。 ①-2 ゼミ論文、レポート等の提出にあたっては、ゼミ生等による相互批評の機会を設ける。 ②-1 複数年にわたり履修者が集中する科目を検出し、授業テーマや時間割配置との関連性を調べる。 ②-2 ERP科目の履修者数をレベル別に集計し、1月のTOEFL-ITPのスコアで補修授業の成果を確認する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	①大幅な入学定員増の下で、4年間の学習成果を適切に測る評価指標を検討する。 ②学部の理念を反映した教育成果の可視化を強化する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	①学習成果を GPA や外部英語試験により測定することの妥当性を確認する。 ②学部パンフレットや学部ウェブサイトで教育成果を公表する。
	達成指標	①GPA、単位取得状況および外部英語能力テスト (TOEFL 等) のスコアを入試経路別・学年別に集計し、退学・留年率や早期卒業率、留学経験との相関性を検証する。 ②学部パンフレットや学部ウェブサイトにおいて、就職と大学院進学に関するページを充実する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	①中等教育のグローバル化を踏まえて、多様な教育歴を考慮した入試方法を常に検討する。 ②学部に相応しい英語能力試験とそのスコアを検証する。
	年度目標	①2019 年度入試への導入に向けて、急増する海外高校や国内インターナショナル・スクール出身者に相応しい入試方法を探る。 ②CEFR で B2-A1 レベルとされている多くの英語能力試験の中で、学部が求める英語力を真に保証する試験とスコアを策定する。
	達成指標	①IB Diploma 等の国際的な大学入学資格や SAT/ACT スコアの必要性を 2019 年度入試要項に記載する。 ②TOEFL と IELTS を基準とした英語能力試験の換算表を作成する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	①学部教員の年齢構成や教育分野の多様性、英語による教育・実務能力に最大限配慮しつつ、専任採用人事を続ける。 ②世界基準の教育を提供するとの学部理念から、研究業績と英語力を重視した兼任講師の採用を行う。
	年度目標	①2018 年度末に退職する助教 1 名と任期なし専任教員 1 名の補充を図る。 ②研究業績を精査の上、複数名の面接による英語力チェックを経て兼任講師を決定する。
	達成指標	①学部の理念に相応しい教員を、春学期中に JREC-IN 等を通して国際公募する。 ②十分な業績と英語力を持つ兼任講師を秋学期終了時まで確保する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	成績不良者や英語力の低い学生に対して、学部全体で支援と指導を行う。
	年度目標	教員による入学オリエンテーション時の個別履修相談と修得単位数が低い学生への個別面談を継続する。
	達成指標	「個別履修相談」と「個別面談」の人数と相談・面談内容を集計して、それらを生かした 2019 年度の授業編成を行う。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	学部の理念と特色を生かした社会貢献・社会連携を推進する。
	年度目標	学際的なグローバル研究と英語イマージョン教育を基調とした連携・貢献の可能性を、関係諸機関との折衝を通して確認する。
	達成指標	社会貢献・連携の具体的な方法と対象機関の例をリスト化する。
<p>【重点目標】</p> <p>最も重要かつ即応性が必要な年度目標は、学生の受け入れに関するものである。国内の中等学校では英語教育と様々な形態での国際理解が著しく進展している。他方、高校時代に単独で海外留学し、「帰国生入試」に準じた経路で、国内主要大学への入学を目指す受験生も増加の一途を辿っている。しかも背後には、入試要項の抜け道を指導する留学者の存在も伺われる。その状況下で、多様な教育歴に配慮しつつ公正な方法で、学部理念に相応しい入学者をいかに確保するかは大きな課題である。</p> <p>①出願資格：国内の教育制度によらない出願者の学習達成度を測るためには、共通の評価基準が必要である。出願資格として IB Diploma、GCE A-Level (UK)、NCEA (NZ) 等、国際的に信頼性の高い大学入学資格の取得を求める。それらの資格を有しない海外からの出願者（受験前年度の国内高への編入生を含む）には、SAT/ACT の受験を義務付けることを検討する。</p> <p>②英語能力試験：CEFR の B2-A1 レベルに相当するとして、国内に多数の英語能力試験が林立しているが、TOEFL と IELTS 以外の信頼度は、国際的にも経験的にも高いとは言えない。各試験機関が謳う能力レベルをそのまま受け入れるのではなく、試験間の正確な換算表を作成する。</p>		

【2018 年度中期・年度目標の大学評価】

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

グローバル教養学部では、2020年度導入予定の新カリキュラム編成に向けての検討が始まっており、具体的な年度目標・達成指標が示されている。専門性の高い学際的知識を滋養するための方策、特定科目への履修希望者の集中解消に向けての方策、英語力の差の拡大への取り組みに関しても、年度目標・達成指標の設定が具体的である。学習成果および学生の受け入れに関連して、英語能力試験の内容とスコアの検証が挙げられているほか、出願資格等、入試方法の検討が重点目標として挙げられており、達成にむけての施策も具体的に設定されている。

【大学評価総評】

グローバル教養学部では、学位授与方針に基づいて「リベラルアーツ教育」「学際教育と専門性」「少人数教育」「ダイバーシティー教育」「学術英語教育」を柱とした教育課程の編成がなされ、教職員・嘱託職員が協力して学生支援を行う体制ができています。入学定員の急激な拡大に対応してカリキュラムを改革し、開講科目数の拡充とともに科目群の再編成を行っており、幅広く多分野が学べるよう選択必修化の工夫も実施している。科目の体系性と順次性を実現するために、兼任教員とも連携しながら、アクティブ・ラーニングを取り入れたきめ細かな教育がなされており、大変優れている。常に検証を行い、改善の取り組みがなされていることも特徴的である。今後も、少人数教育ならではの、一層の教育成果が期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。